

記者発表資料

「梅雨期(平成22年)における下谷川改修事業の効果について」

今年の梅雨は全国各地で大雨をもたらしましたが、九州南部においては特に梅雨期の前半に集中して大雨となり、各地で浸水や土砂災害の被害に見舞われました。

このような中ですが、今年6月に完了した肝属川の下谷川改修事業において、水位低減の効果が発現されていますので報告します。

なお、九州地方における治水事業の被害軽減効果については、九州地方整備局より本日10:00に発表されています。

●下谷川改修事業効果（別紙1参照）

肝属川の支川下谷川では、近年、局地的集中豪雨により、避難判断水位を超過する洪水が頻発していたため、平成18年度から川底の掘削等の工事を行い、今年6月に工事が完了しました。今年の梅雨期においては、6月12日から7月20日までの間に連続雨量100 mm を超える降雨を4回記録し、工事実施前の川の断面では 避難勧告の目安となる水位（避難判断水位）を3回超過する規模の洪水が発生しましたが、工事完了後の今回は避難判断水位を超えることはなく、河川改修の効果が発現されました。

記者発表に関する問い合わせ先

国土交通省 九州地方整備局 大隅河川国道事務所

鹿児島県肝属郡肝付町新富1013-1

電話（0994）65-2541

技術副所長（河川）

調査第一課長

榎田 範男（内線 204）

東 和彦（内線 351）

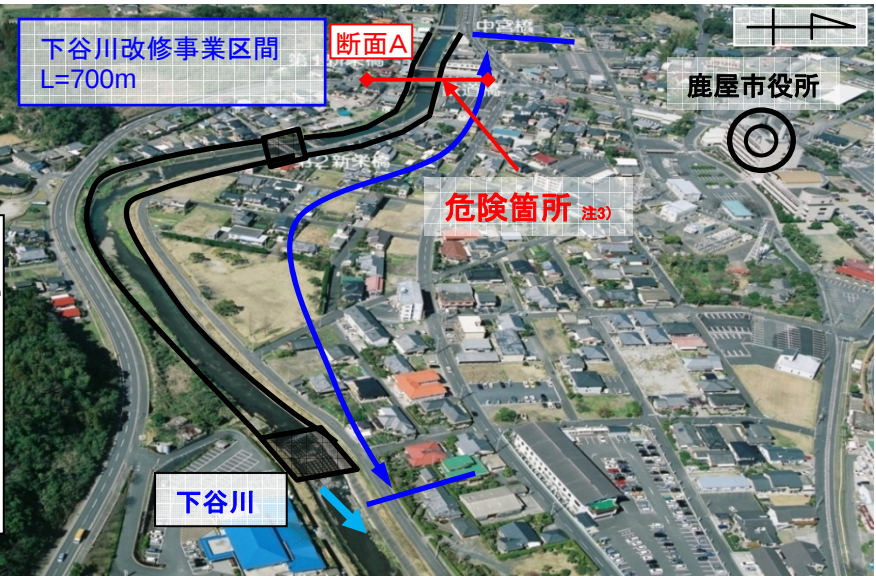
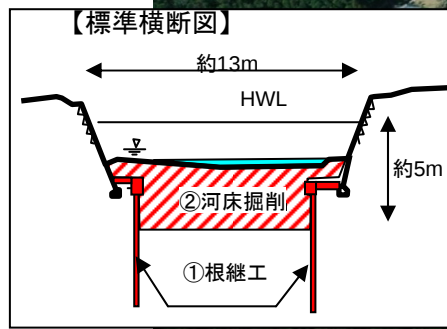
別紙1 下谷川改修事業効果【肝属川水系下谷川（鹿児島県）】

肝属川水系下谷川では、今回の梅雨において、今年6月に完了した下谷川の改修の効果により、避難判断水位超過が3度回避された。

◆事業内容

- ・事業主体 : 国土交通省
- ・事業期間 : 平成18年度～平成22年6月完了
- ・主な事業内容 : 河道掘削、護岸根継工、床止改築等
- ・事業目標 : 1/30規模の流下能力確保

肝属川水系位置図



◆出水状況

○累加雨量は6月12日から7月20日の39日間で年間降水量の約1/2に達し、連続雨量100mmを超す降雨を4回記録

今年梅雨期の出水概要

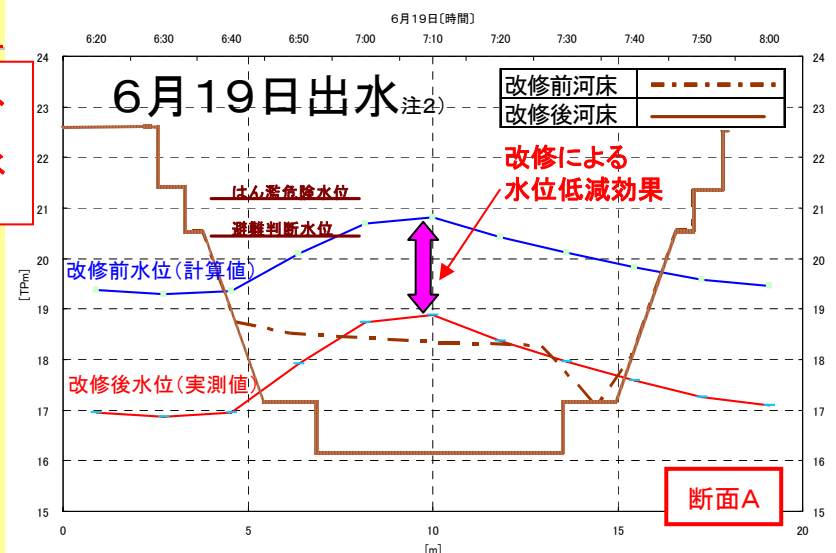
梅雨期総雨量	1,214mm
連続雨量100mm超過回数	4回
最大時間雨量	45mm
最大連続雨量	260mm

◆整備効果 注1)

○改修事業の効果により、3度の避難勧告の目安となる水位(避難判断水位)超過を回避！

避難判断水位超過回数

改修前河道
3回(試算)
改修後河道(今年)
0回(実績)



注1) 4回の出水があり、改修前断面で試算したところ3回避難判断水位を超過したと推定されますが、改修後(実績値)の今年は0回でした。

注2) 6月19日出水の改修後水位(実績値)を赤で記載。改修前水位(計算値)を青で記載。

注3) 平成22年5月までの危険箇所。平成22年6月以降は改修により危険箇所の水位が低下したため箇所を変更。